



遠藤 誠 議員
(無所属)

問 若者よそ者の積極的参画を全施策に

慶大生の地域活性化への参画は効果が大きく期待される。慶大生は当然若者であり、よそ者である。この方針を全施策へ適応し、積極的に若者の市政への参画を進めるべきである。また外からの視点を持つ新住民にも積極的に市政への参画を促すべきではないか。

答 幅広い世代の参画に努めていく

若い世代をはじめ、幅広い世代の方が市政に関心を持っていただくことは大変重要である。また、本市に新たに住まわれたかたがたが、市内のさまざまな活動に参加している状況もある。今後も幅広く、多くの市民の皆様が、市政に参画できるように努めていく。

問 丁寧な民主主義と区長代表選

投票率 26.77% の市長選があり、当市は 36.60%。これは民主主義の危機であり、国の衰退の前兆である。対策に政治的作為を極力排除することである。まず 45 人の行政区長の代表選を直接選挙にするなど、すべての面で丁寧な民主主義を積み重ねていくことではないか。

答 選出は行政区長会の規約にもとづき実施

行政区長会は行政区長で組織される任意団体であり、会長は規約にもとづき、日勝、篠津、大山の地区ごとに選出された 12 名の理事の互選により選出され、総会の承認を得て決定される。この選出方法は、一定の合理性があるものと理解している。



渡辺聡一郎 議員
(創政会)

問 市民農園を活かした緑の交流を

千駄野地区の市民農園を活用し、都市住民と緑の交流を促進できないか。農業に興味を持つかた向けに農業塾などのイベントを実施し、農に携わるかたがたを育てる考えは。また市民農園についてホームページなどでも発信し、利用を積極的に呼び掛けてはどうか。

答 農業に関心あるかたへのサポートをする

緑の交流を後押しするためにも、利用者が集い、そして語り合うスペースとしてベンチの設置を検討する。農園利用者や農業に関心があるかたを対象に農業講演会を実施しサポートしていく。市ホームページでふるさと農園の紹介を行い、周知を図っていく。

問 避難所におけるペットの対応は

近年、避難所におけるペットの対応が重要な論点となっている。災害発生時の混乱の最中にペットの対応をどうするか決定することはむずかしい。あらかじめ全体的なペット対応を十分に検討し、地域のかたがたとともに事前準備を進めていくことが必要ではないか。

答 ペット対応情報の周知・啓発に努める

市では、避難所開設・運営マニュアルでペットの取り扱いに関する基本的事項を定めている。避難所の運営は住民主体が望ましいため、平常時から自主防災組織や行政区に対してペット対応の情報提供を行うとともに、広報紙や出前講座などにより周知・啓発に努める。

